

『鴨川ホルモー』

万城目 学／著 産業編集センター（2004年）

都大路に鳴り響く、伝説誕生のファンファーレ。前代未聞の娯楽大作、碁盤の目をした夢芝居。「鴨川ホルモー」ここにあり!!（本書カバーより）

「ホルモー」とは対戦型の競技。京大生の主人公はうっかりその「ホルモー」の世界に足を踏み入れることになり…。

2009年には山田孝之主演で映画化もされた、大人気青春ファンタジー。大真面目に可らしい万城目ワールドをお楽しみください。

『標本の本』

—京都大学総合博物館の収蔵室から—

青幻舎（2013年）

約260万点の資料を収蔵する全国でも有数の大学博物館。常設展示以外にも企画展・特別展など開催しています。この本は、その膨大な資料の中からきれいな標本の写真がたくさんついています。また標本の目的や標本の作り方などが書かれています。アナログ手法のよさ、新しい研究方法のよさ、それぞれのよさを感じることができます。ここにじっくりと標本を見てみるのはいかがでしょう。



『宵山万華鏡』

森見 登美彦／著 集英社（2009年）

宵山の日、京都の街で見える光景は、まるで万華鏡のようにくるくると姿を変える。バレエ教室帰りの姉妹、宵山にとらわれる男性、大掛かりな仕掛けをほどこす集団、従妹を宵山で見失った女性、宵山の日をずっと繰り返す人たち—祭りの中にいる登場人物たちが、それぞれ交錯しながら、少し不思議な宵山を過ごしていく。



『騙し合いの法則』

竹内 久美子／著 講談社（2014年）

動物行動学研究家の視点で語られる、生き抜くための「自己防衛術」。動物の行動から解説されているからか、ずっと頭に入ってきます。例えばスズメの「チュン鳴き」実験。スズメはここに餌があるよ！と仲間に知らせるためにチュンと鳴きます。それはなぜか？…お人好しなわけではありません。仲間に知らせて数匹でついでに、常に誰かが周囲を警戒しているので、捕食者から身を守ることにつながるのです。生き抜く知恵ですね。

『鍵のかかった部屋』

貴志 祐介／著 角川書店（2011年）

経済学部卒の著者が放つ、『硝子のハンマー』『狐火の家』に次ぐ、密室探偵シリーズ。この本は4作の短編集ですが、青砥弁護士の見事外れる推理と、どんな密室も解明してしまう防犯コンサルタント榎本との、絶妙な掛け合いも楽しめ、思いもよらない密室トリックに、どう挑むのか見ものです。劇団を舞台に繰り広げられる密室&名推理は、コメディ要素もあり、著者の引き出しの多さに感心するものの、脱力必至です。

『こころの読書教室』

河合 隼雄／著 新潮社（2014年）

京大理学部卒。日本におけるユング派心理学の第一人者であり、臨床心理学者。文化庁長官も務める。2007年に没。

この本は物語の造詣に深かった河合氏が、自分で選んだ本を解説しつつ、人間のこころについて解き明かしています。こう書くと難しい本かと思いき、敬遠される方もいるかもしれませんが、そんなことはなく、河合氏が「この本読まな、損やでえ」という本を紹介してくれています。